

令和4（2022）年度 学校教育自己診断アンケート 集計結果

<アンケート回収数・率> 10月31～11月7日実施

11月7～25日実施

11月7～25日実施

○教職員	回収数	回収率
小学部	37	100%
中学部	24	100%
高等部	89	100%
合計	150	100%

*養護教諭、栄養教諭、常勤看護師は高等部に含む

○保護者	回収数	回収率
小学部	35	78%
中学部	28	88%
高等部	108	72%
合計	171	76%

*保護者の回収率は昨年度より全体で5%増加。

⇒増加理由として、回収期間の延長および「さくら連絡網」での再周知が考えられる。

○生徒（高等部生徒のみ）
回収数117（回収率79%）
*学校にて実施、回収

【1】保護者アンケートより（昨年度との比較で注目すべき項目および新規項目）

<項目No. アンケート内容>	令和3年度	令和4年度	昨年との比率
No.5 いじめについての対応	85.7%	93.6%	+7.9%
No.7 ホームページ等での情報提供	83.9%	78.4%	-5.4%
No.15【新規】ICT機器の活用		76.0%	

「学校いじめ防止対策会議」が中心となって全保護者、教職員に対し「いじめ防止基本方針」について丁寧な説明を行うことで「いじめに該当する行為」への認知が浸透した。ホームページ等での情報提供については、学校としてコロナ禍の有無に関わらず常日頃から教育活動についてのHPの充実を図るなどの積極的な情報提供、情報発信が必要である。

【2】教職員アンケートより（昨年度との比較で注目すべき項目および新規項目）

<項目No. アンケート内容>	令和3年度	令和4年度	昨年との比率
No.27 研修や授業研究の充実	65.8%	82.0%	+16.2%
No.8 ホームページ等での情報公開	63.8%	64.0%	+0.2%
No.28【新規】ICT機器の活用		86.7%	

各分掌、委員会が感染症対策を講じながらそれぞれ趣向を凝らした研修を実施し、参加教員から高い満足度を得ることができた。ホームページ等での情報公開に関する肯定率の伸びが低く、もっと情報提供すべきと感じている教職員が多い。ICT機器の活用については、教職員の肯定率が高く、情報機器を効果的に活用して個に応じた学びや知識理解の定着を図っていることが伺える。

【3】生徒アンケートより（今年度最も肯定率が増加した項目）

No.10 先生は地震や火事などがおこった時、どうしたらよいか教えてくれる。 令和3年度 74.1% ⇒ 令和4年度 82.1% (+8.0%)

<分析>避難訓練が定着し、常日頃から教員が「命を守るための備えや行動」について繰り返し児童生徒に伝えていることがわかる。